

ロイヤルエンフィールド、ヨコハマホットロッド・カスタムショー2022に初出展



東京、2022年10月：中型モーターサイクルセグメントのグローバルリーダーであるロイヤルエンフィールドは、12月4日(日)にパシフィック横浜で開催される日本最大級のカスタムカーおよびカスタムバイクのイベント「ヨコハマホットロッド・カスタムショー2022」に初出展します。

会場内のメインエリアに位置するロイヤルエンフィールド・ブースでは、世界中のカスタムシーンで活躍するトップビルダーによって製作され、世界的に高い評価を受けているカスタムバイク2台、KAMALA by Sosa Metalworks (カマラ by ソーサ・メタルワークス)、Midas Royal by Rough Craft (ミダス・ロイヤル by ラフクラフト)と、アメリカのフラットトラック選手権であるAFT(アメリカン・フラット・トラック)で2勝しているファクトリーマシン、Twins FT by Royal Enfield (ツインズ FT by ロイヤル・エンフィールド)を展示いたします。今回展示する車両は3台とも650ccのパラレルツイン・エンジンを搭載した車両をベースとして製作されており、ロイヤルエンフィールド・モーターサイクルの計り知れない可能性を表現しています。

アジア太平洋市場担当のアヌージ・ドゥアは、カスタムバイクとヨコハマホットロッド・カスタムショー2022について次のように述べています。

「私たちは、ロイヤルエンフィールドをカスタマイズのための最適なキャンパスとして使用する世界中のトップ・カスタムビルダーと協力してきました。タイ、インドネシア、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアでは、ロイヤルエンフィールドは世界で最もカスタムしやすいモーターサイクルであるというフィードバックを得ています。私たちは、世界中のモーターサイクリストの夢を、創造と創作を通して実現するための味方でありたいと願っており、アジア太平洋地域だけでも、情熱的なディーラーネットワーク、熱狂的なお客様やファンの皆様によって、50台以上のエキサイティングなカスタムバイクが造られてきました。そして、これまで世界中で何百台ものカスタムビルドを手がけてきた私たちが、ついに、世界中が注目するカスタムイベントであるヨコハマホットロッド・カスタムショー2022に参加することができ、大変嬉しく思っています。トップビルダーの強いインスピレーションを受けたカスタムバイクを実際にご覧いただき、日本の皆様と、ピュア・モーターサイクリングの喜びを共有できると心から信じています。」

【開催概要】

■ イベント名称: 第 30 回ヨコハマ・ホットロッド・カスタムショー2022 (<https://yokohamahotrodcustomshow.com>)

■ 開催日: 2022 年 12 月 4 日(日)

■ 開催場所: パシフィコ横浜

神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1 (<https://www.pacifico.co.jp>)

■ チケット: 前売り 4,300 円 / 当日 5,000 円(小学生以下無料)

チケット詳細 (<https://yokohamahotrodcustomshow.com/ticket-2022/>)

【展示予定車】

<KAMALA by Sosa Metalworks / カマラ by ソーサ・メタルワークス>

ベースマシンは Continental GT650。カスタムを手掛けたのは、米国ラスベガスを拠点に活動する Sosa Metalworks です。2012 年にクリスティアン・ソーサが弟のロベルトとともに創設した Sosa Metalworks は、四輪カスタムの世界で、さまざまな金属加工の技術を発揮してきました。「KAMALA」と名付けられたこのマシンは、その高い加工技術を駆使して製作されました。クロモリ鋼管のフレーム、ガーダーフォーク、外装類はすべてクリスティアンによるハンドメイド。かつて二輪や四輪のレースが行われていた木製のオーバルコース / ボードトラックを駆け抜けていたレーシングバイク、ボードトラックレーサーがモチーフとなっています。

<Midas Royal by Rough Craft / ミダス・ロイヤル by ラフクラフト>

ベースマシンは Continental GT650。カスタムを手掛けたのは、台湾を拠点に世界中のカスタムシーンで活動する Rough Craft です。ロイヤルエンフィールドは 2017 年の EICMA(ミラノショー)で並列 2 気筒エンジンを搭載した「Continental GT650」と「INT650」を発表し、その翌年に市販モデルを公開しました。この「Midas Royal」は、その市販モデルの発表に合わせ、EICMA のロイヤル・エンフィールド・ブースで公開したカスタムマシンです。Rough Craft のオーナーでありデザイナーであるウインストン・イエーは、リアサスペンションをモノショック化するとともに、前後にハイパフォーマンスなサスペンションユニットを採用。リアのモノショック化に合わせてリアフレームを再構築するとともに、フロントカウルやシートカウルも新たにデザインしています。

<Twins FT by Royal Enfield / ツインズ FT by ロイヤルエンフィールド>

フレームは、現在ロイヤルエンフィールド傘下にあるスペシャリスト / ハリス・パフォーマンスが開発。前後サスペンションはオーリンズ製ですが、そのセットアップもハリス・パフォーマンスが行っています。そこに INT650 に搭載される排気量 650cc のパラレルツイン・エンジンをベースに、米国の S&S 社が開発した 750cc ボアアップキットと専用の排気系、カスタム ECU を組み合わせています。外装はイギリス・レスターシャーにあるロイヤルエンフィールドの UK テクニカルセンターが担当しました。この車両は 2020 年からアメリカのフラットトラック選手権 / AFT(アメリカン・フラット・トラック)のプロダクションツインクラスに参戦。水冷エンジン搭載マシンがひしめくなかで、2020 年および 2021 年に各 1 勝 / 通算 2 勝を挙げているマシンです。

ROYAL ENFIELD

<ロイヤルエンフィールド社について>

ロイヤルエンフィールドは、1901年の創業以来、美しいオートバイを作り続けている世界最古のモーターサイクルブランドです。イギリスにルーツを持ちますが、1955年にインド・マドラスに製造工場を設立し、これを足がかりにロイヤルエンフィールドはインドの中型二輪車セグメントの成長を先導してきました。ロイヤルエンフィールドは、魅力的で、シンプルで、親しみやすく、乗るのが楽しい、探検と自己表現のための乗り物です。これは私たちが Pure Motorcycling(ピュア・モーターサイクリング)と呼ぶアプローチです。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、新型クルーザー「メテオ 350」、並列二気筒エンジンを採用した「INT650」と「コンチネンタル GT650」、アドベンチャーツアラー「ヒマラヤ」、アイコンックな単気筒モデル「クラシック 350」などがあります。ライダーと情熱的なコミュニティは、各地方、地域、国際レベルで開催される豊富なイベントによって育まれています。特に、毎年インド・ゴア州で開催し、何千人ものロイヤルエンフィールドファンが集まる「ライダーマニア」や、もっとも過酷な地形と最高峰の峠を越える巡礼の旅、「ヒマラヤン・オデッセイ」などは有名です。

Eicher Motors Limited(アイシャーマーターズ・リミテッド)の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に2,100以上の販売ディーラーを、また世界60カ国以上に約850の販売ディーラーを展開しています。またロイヤルエンフィールドは、イギリスのブランディングソープとインドのチェンナイの2箇所に、テクニカルセンターと呼ぶ先進的な開発部門を有しています。そしてチェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルの2箇所に、最新鋭の生産施設を持つ工場も有しています。インド国外に目を向けると、ロイヤルエンフィールドは、タイ、アルゼンチン、コロンビアの3ヶ所に最新のCKD(コンプリート・ノックダウン)組立施設を有しています。過去5年間のCAGR(年平均成長率)は37%以上、2021-22年の国際市場での売上は前年比108%増と、ロイヤルエンフィールドは世界の中型モーターサイクル市場をリードしています。

ロイヤルエンフィールドのブランドやモーターサイクルに関する詳細は、下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.royalfield-tokyoshowroom.jp/>

製品に関するお問い合わせ先

ピーシーアイ株式会社(ロイヤルエンフィールド正規輸入販売会社)

E-mail: press@pci-ltd.jp

報道関係者のお問い合わせ先

Royal Enfield 日本 PR 事務局(アソビバ合同会社内) 担当: 三屋(みつや)050-5604-0821

TEL: 03-4572-0690 royalfieldjpn_pr@asovivapr.com